

令和5年度 稲毛区区民対話会「防犯士の活動について」議事要旨

1 日 時 令和6年2月2日(金) 15:00~16:15

2 場 所 稲毛区役所3階 講堂

3 出席者 区民参加者:防犯士10名

稲毛区:区長、副区長、地域づくり支援課 課長、課長補佐、他2名

4 議事要旨

1 防犯士の活動

(1) 養成講座で学んだ知識の共有

区 長:防犯士養成講座受講後に地域の中で知識の共有をしていただいた事例について、実際に取り組んでいただいているものもあれば、今後取り組みたいこととして考えていただいているものもあると思うので、それぞれの取り組みについて紹介してほしい。

防犯士A:受講した内容について、地域防犯リーダー会議で紹介したり、購入した防犯に関する本を各グループリーダーに読んでもらったりしている。また、地域の空き家情報を提供し、夜間パトロールの一助としている。近隣の交番の犯罪情報を集め、2ヵ月に1回のパトロール会議で、多く発生している犯罪などの情報を提供して防犯意識の啓発をしている。

防犯士C:毎月の定例理事会において、防犯講座で学んだ内容を伝えた。会員が一番驚いていたのは、ゴミ捨ての時にカギをかけないで家を出ると、その隙に侵入した犯人が家の中で待ち伏せていた事件があったという話。わずかな時間でもカギをかけないと危ないんだと怖がっていた。理事・組長の家には、警察官立寄所のシールをつけてもらい犯罪抑止に繋げている。子ども女性110番の家の看板を掲げてもらうことで、犯罪の抑止になればと思う。町全体で犯罪を寄せ付けない取組をしている。

防犯士E:これから社会人になっていく友人も多いので、友人に対し防犯士の立場から、新生活のアドバイスや相談にのっている。

防犯士F:学生が防犯に意識を持つきっかけは一人暮らし始めてからが多いと思う。4月から社会人になって1人暮らしを始めようとしている友人も多く、実際に物件を探している友人に対して防犯講座で学んだことを教えた。大学生に対しても防犯の大切さを伝えるのが大事だと感じている。これからも学生の中で広げていきたいと思う。

防犯士H:あんしんケアセンター主催の勉強会・サロンで、防犯士養成講座で学んだ内容を広める講座を開いた。■■町は自転車盗が多いと話したら、我が事のようにとらえてくれた。実際の地域の情報を地域の人に伝える事で意識も高まった。挨拶も防犯になると伝えたが、それも啓発につながっていると思う。今後も続けていきたい。

区 長:全5回という講座で多くの知識を習得され、なかなか一度に共有することは難しいと思う。同じ内容ひとつひとつを何度も繰り返すことで身についていくと思う。

この会議の目的でもあるので、皆様が感じたことを取り組んでもらうとともに、この場での情報共有を通じてこれは自分たちもできるとか、この団体と連携したいなどあれば、区役所に声をかけてもらえれば取次ぎもする。

(2) 防犯活動での応用

区 長：実際のパトロールなどで知識を活用した、あるいは今後活用したいと考えている事例について紹介してほしい。

防犯士C：警察署による防犯講話、交通安全講話を聴いてから活動している。防犯士としては、今月の回覧板で、防犯士のマークの掲載と、防犯一口メモ（コラム）の掲載を検討している。

防犯士D：過去に警視庁の刑事をしていた。検挙できるのが一番いいが、防犯士の講習を受けて感じたことは見せる配備も大事だが、犯罪者が恐れて二度と町に寄ってこないようにするために、機動力と徒歩を組み合わせた重点パトロールが有効だと思う。偽物でもいいので無線機で会話している姿を見せるなど威力を見せるだけでも犯罪者は寄って来なくなると思う。そこで、自分のように退職してのんびりしている元警察官何人かに声を掛けて人を集めた。そういった警察経験者たちを何人か集めたパトロールチーム作りたいと考え、今はその準備を行っている。

区 長：■■■■町内会においては、以前から外国人の方々とのパトロールがテレビなどでも取り上げられており、共生社会の実現にも寄与されている。防犯士の知識も活用していただき、なお一層、効果的なパトロールをお願いしたい。

また、防犯士Dのお話については、かなり踏み込んだ内容を計画されている印象を受けた。防犯士は地域を守る目となっていただく、防犯の観点で地域を見ていただくことが趣旨なので、その枠を飛び越えた内容だと感じた。■■■■先生からも、まずは自分の身の安全の確保を第一とし、安全なところへ避難して通報するようにとのお話もあったので、活動にあたっては十分にご留意いただけたらと思う。

防犯士J：出発前の■■■■警察からの防犯講話をお願いしているとのことだが、交番の人に頼んでいるのか。

防犯士C：■■■■警察署の生活安全課長や警備課長をお願いしている。

防犯士J：■■■■町会でも月1回防犯パトロールをしているが、どうしてもパトロールだけになってしまうので、講話を何うことができれば、交番だよりだけでは見逃してしまうような、今どんな犯罪が多いのかといった情報を逃さずに得られると思う。

防犯士C：勉強会は今一番身近な犯罪を教えてほしいと頼んだところ、台風前に屋根の状態について声をかけてきた業者が、台風後にまた訪れたことで信頼し、詐欺被害に遭ってしまったという事例を聞き、とても身近に感じられて勉強になった。

防犯士J：実際に起きた話を聞けば「自分も気を付けないと」と意識すると思う。

防犯士A：交番によって犯罪の情報収集のやり方が違うため、整合性が取れないことに困ることもある。

防犯士B：コロナを経て防犯パトロールの回数が少なくなったが、みんなの話を聞いて、また再考したいと思った。

区 長：この区民対話会は、他の参加者の話を聞いた中で、「これを〇〇に聞きたい」という話があれば率先して発言してもらいたい。私と1対1で話をするよりも、今のような、みなさんの会話がものすごく重要で、地域のためにもなるので、率先して会話をしていただけると、本当にためになる会議になりますので、忌憚のない意見をみなさんをお願いしたい。

防犯士J：退官した警察官は■■■■地区にもいるのか。

防犯士D：全ての地区にいる。仲間意識が強いので、仲間から声をかけると参加してくれる。今、元消防士も集めて、防犯防災一体となった組織を考えている。災害時には犯罪が10倍に増えると言われており、地域において、経験者を普段から活用しておけば、災害時の犯罪抑止に繋がると思う。まずは基盤を作っている段階だが、いずれは活動範囲を全域に広げたいと思う。

防犯士I：元警察官を紹介してもらうことはできるのか。

防犯士D：できる。

防犯士A：防犯パトロールに限らず詐欺関係の情報も流したいと思っている。町内には高齢者が多いので狙われやすいこともあり、デジタル化も進めたいがなかなか難しく、困っている。

防犯士C：高齢者詐欺に関して、以前、防犯モデル地区として■■■■警察署から、電話につける特殊詐欺対策アダプターを10台借り、高齢者に貸出しを行った。アダプターを付けると、「この電話は録音しています」との音声流れ、着信の色によってどこからの電話か分かるもの。半年だけ借りたが、返却の時に、詐欺対策だけでなく、勧誘電話もなくなったということで買いたいと言った人もいた。返却後に、実際に購入した人もいたくらい便利なものだった。興味があれば警察署に相談すると教えてくれると思う。

(3) 連携

区長：防犯士養成講座の目的のひとつに、様々な団体相互の連携がある。

あんしんケアセンター■■■■から考えをお寄せいただいております、■■■■生活支援コーディネーターの立場から、福祉、防犯、地域交流という複合的な要素を絡めて支援ができたという考え。■■■■自治会との連携を検討したいとのこと。

防犯士I：講座の中でも先生から町内の中で顔の見える関係を作っておくことが犯罪抑止に繋がると聞いて納得した。職業柄、65歳以上の方と関わることが多いが、横のつながり、顔の見える関係を作ることが、健康のため、防犯のためになると納得した。圏域内の訪問の中で防犯に関する情報提供をできればと思っている。顔の見える関係を作ることが、犯罪者が入りづらい地域になる、健康と防犯に繋がると認識してもらうことで、高齢者の意識向上が出来ればと思う。

2 デジタルを活用した知識の共有

区長：防犯士の皆さんの知識・経験を広く発信することで、予知防犯に寄与すると考えている。

デジタルを活用した知識の共有について、みなさんのお考えを伺いたい。

防犯士G：防犯士の時期は就活と重なってしまい、■■■■大学からの参加は1名となったが、同じ大学の学生に向けてどうやって情報共有しようか考えたときに、主にSNSでの発信としてインスタグラムのストーリー機能を使って、気軽に情報共有することで情報が広がりやすかった。

防犯士F：学生はSNSを見る機会が多いと思う。インスタグラムのストーリー機能の中で、今最も多く起きている犯罪の情報を流せたらいいと思う。また、大学生になるほど犯罪の遭遇率が上がると思うが、大学生は担任の先生がおらず、身近な大人から情報を得られる機会が少ないので、高校生なども

っと年齢が下の子を対象にして、担任の先生など身近に話す機会が多い大人がいる高校生のうちから啓発を行うことも効果的だと思う。

区 長：デジタルというものが大きく生活に浸透してきてはいるが、学生の視点で協力できそうなことの提案はないか。

防犯士G：防犯士養成講座の間、学生が SNS を作って、講座の内容を発信することで少しでも多くの人に情報が行き届くと思う。

区 長：そういった情報を高齢者はどう知ればいいのか。

防犯士G：身内に高齢者がいればその人に話してもらうとか、身内から友人間で広めてもらい、広がればよいと思う。

防犯士H：スマホを使っている高齢者は QR コードの読み込みくらいならできるので、あんしんケアセンターでは、講座の内容を QR コードにして貼り出し、周知もしている。あんしんケアセンターは各圏域にあるので、見に来ていただければと思う。また、実際に消費者被害（詐欺）に関する情報も QR コードを作って情報を提供した。

千葉市で犯罪情報を HP で発信しているが、見づらい。もっとわかりやすく、誰にでも分かるようにしてもらえれば情報を取りやすいと思う。

防犯士D：犯罪情報データは警察からの提供データなので市で加工はできないと思う。

区 長：ご意見については確認する。

3 活動に必要な支援

(1) 学習の機会

区 長：活動するにあたり、勉強会や資金・物品など、様々な支援が必要になってくると思う。

まずは、勉強会や研修会について、どのような内容で実施するのが効果的か意見を伺いたい。

防犯士E：先生の話は毎月聞くだけではなく、グループディスカッション等、自分たちでも考えることができたと思う。例えば自分が所属している大学のゼミに話をして認知を広げるとか、SNS や地域との連携もゼミを通した学生目線できると思う。学習の機会をもっと設けて、大学のゼミ生を呼べばもっと良くなると思う。

防犯士H：勉強会の中で情報交換をして、先生からの話を基に会話をする事で相手も防犯意識を持てると思う。1人暮らしでも、家に帰って「ただいま」と言うのが防犯対策になると伝えるなど、情報共有をする事で防犯に対して興味をもってもらえると思う。

防犯士I：職業柄、高齢者と接する機会がほとんどなので、防犯士Eの話聞いて、若くて意識の高い人をお願いして、若者の考えも混ぜ込みながら防犯につなげていけたらいいなと思った。

区 長：今回のような区民対話会で防犯士の皆さんに集まっていただき、意見交換を行うことも大切だと思う。

(2) 資金・物品・ツール

区 長：活動資金や物品など、予算が必要なものについていくつかご意見をいただいているので、その

必要性や効果についてご意見を伺いたい。

防犯士B：防犯パトロール隊は40人くらいで活動しており、各班長との連絡はとっているが、全員参加の勉強会ができておらず、場所を借りるにも予算が少ない。だが、今日の話聞いて勉強会をやりたいと思った。■■■先生の本も購入数が少なく、なかなか全員に回覧できない。

防犯士C：交通安全ののぼりを町内に数か所立てている。「電話 de 詐欺」ののぼりは警察からもらえることもある。防犯ののぼりを数多く立てて注意喚起したいが、警察からの支給はなく、価格も高く立てることができない。稲毛区として区内の町内自治会向けに防犯ののぼりの作成を検討してほしい。

防犯士D：玄関のカギやシャッターをしめたら防犯になると思っている人も多いが、犯罪者にとってはすぐに開けられるため、それくらいでは動じない。犯罪者は事前に高級なものを持っているかを日常で見て判断し、狙っている。町に来たくないと思わせるようにするのが大切。そのために耐刃ベストや耐刃グローブをつけて威圧するなど、装備資機材を揃えて犯罪者にこの町には来たくないと思わせることが大事だと思う。犯罪はいつ起きてもおかしくないと思わせるような実地訓練を重ねて、■■■先生も言っていたように住民自身が目を光らせて警戒できるようにするのが大事だと思う。装備資機材の援助があれば、1か所成功すれば対象地域を広げられると思う。

区 長：防犯士養成講座の効果検証は難しいが、稲毛区は他区に先駆けて実施するという事で講座に関する事業予算が付いている。効果検証する中で皆さんの意見を聞きながら予算要望を検討していけたらと思う。補助について、すぐに回答することはできないが、みなさんの考えや必要なものがうかがえたので検討していきたいと思う。

防犯士J：綺麗な町と、ゴミや雑草が多い荒れている町だと、荒れている町の方が放火など犯罪に狙われやすいのか、綺麗な町の方が生活レベルが高いと思って強盗などに狙われるのか気になっている。犯罪抑止のために、町内でごみ拾いはしているが、草刈りまではできていない。町をきれいにしておいたほうが防犯に繋がるのか。

防犯士D：防犯の関心が高い町は狙われないが、お金を持っていて無防備な家は狙われやすい。綺麗だから大丈夫という事もないが、荒れている町の方が防犯の関心が低く、狙われやすいとは先生も言っていたし、そうだと思う。あとは防犯カメラを設置するのも大事だと思う。自分もボランティアで草刈りや、ちばレポで草刈りのお願いをしている。

4 担い手の確保

区 長：活動を継続するにあたり、担い手の確保は重要だと思う。地域課題全般としても、高齢化による担い手不足は多くの地域で課題となっている。今回も同様の課題が意見として寄せられているが、実態や解決策のご提案などあるか。

防犯士B：近隣マンションのパトロール含めて1時間くらいパトロールを行っているが、予定があると言って欠席する人が多い。2か月に1回、自治会だよりで募集をすると来てくれる人もいるが、時間帯が20～21時で、冬季は19～20時もやっているが、夜は厳しいと言われる。高齢者が多く、体力的にも参加者の確保が厳しい。

防犯士A：ボランティアだから休みたかったら休んでも良いと言っても義務や責任を感じてしまう人が

多い。ボランティアだから、時間があれば気軽な気持ちで来てほしいが、なかなか来てくれない。今も募集をしないと2、3グループ消滅しそう。

防犯士B：気軽に来られないと思われると、若い人がなかなか入ってくれない。

防犯士C：警察の移動交番の班長が熱心で、剣道教室の指導もしている。県警の試験を受けた高校生、剣道教室の生徒（子ども）にもパトロールに参加してもらっている。パトロールは役員だけでやるものだとすると参加を嫌がるが、子どもが声を張り上げて頑張っていると、役員も自分たちもやらないと、と思う。自分の孫でもいいから参加させると、防犯パトロールの空気が変わる。子どもが参加するのは良いPRになると思う。

区長：学生の視点で何か意見はないか。

防犯士G：自分が子どものときに防犯パトロールに参加していた。子どもは普段、夜間に出歩くことはできないので楽しかった。防犯パトロールは楽しいものとアピールすると子どもも参加してくれると思う。

防犯士E：昼間に休憩も挟みながらパトロールを行うのはどうか。犯罪者も昼間に対象者を探しに来ることもあると思うので、夜のパトロールにこだわることはないと思う。

防犯士H：自分が住んでいた地区は以前、青年部が中心になって防犯パトロールをやっていた。青年部のOB連や現役の住民が週1回くらいで回っていた。たまに子どもも一緒に回ることもあった。高齢者だけでは大変だと思うので、青年部があれば若い人にも声掛けして参加してもらうのは良いと思う。

5 防犯意識の向上

区長：学生からの意見で、学生に何かできること、防犯意識を高めるにはどうすべきかとの意見が寄せられているが、具体的にお話ししてほしい。

防犯士G：パトロール隊などの団体に所属していない学生に何かできることはないかと、講座を受けながら考えていた。あとは大学内の、地域と連携したサークルに声をかける事もできると思う。能登地震もあり、防犯と災害の両方の観点から考えられることについて話ができれば良いかなと思った。

防犯士F：防犯の意識を高めてもらう、興味を持ってもらうきっかけ作りが大切だと思う。自分もゼミの先生から紹介を受けて講座の開催を初めて知った。実際にできる事としてはSNSでの発信や、それを含めて1人暮らしを始める学生向けの情報発信などが良いのかなと思った。

防犯士J：防犯士だからといってもできることはあまりないが、逆に表に出して防犯士と言っていると被害に遭うのではないかと思うこともある。

まちづくりゼミの中ではどのような活動をしているのか。少子高齢化社会の中で、どのようなまちづくりをしているのか。

防犯士E：ゼミでは、緑化活動ボランティアをやっている。他学年では、地域の老人ホームでのボランティアや、地域を盛り上げるための企画立案をしている。今回の講座を経て、防犯についてみんな考える機会を設けることもできると思う。大学でもボランティアサークルがあるので、防犯パトロールに学生が参加することや、区内3大学の学生で、地方から来た学生向けに稲毛区を知るきっかけも兼ねてパトロールをすとか、学生目線で企画できたらいいと思う。

防犯士J：■■町会は、■■大学と夏祭りなどで連携する機会が多いが、そういう連携もしているのか。

防犯士E：大学が■■地区にあるので、■■町のまつりや、■■公園のイベントなど様々な協力をしている。

防犯士J：ボランティアで防犯パトロールに協力してほしいと頼んだら来てくれるのか。

防犯士E：ゼミの時間内であれば協力ができると思う。

区 長：それぞれの立場の中でできることから、連携して広げていくことができるのが一番理想。大学と自治会が連携して、さらにはデジタル化なども進められたら安全安心なまちづくりができると思う。

防犯士H：生活支援コーディネーターは各大学と年1回情報交換会をしている。今まではボランティアなど担い手の話が多かったが、今回の話を聞いて様々な広がりができると思った。次の情報交換会で提案できればと思う。

6 その他

区 長：今後の防犯士養成講座の予定について、稲毛区としては、次年度も講座を開催したいと考えている。

次年度の講座は、今年度実施した内容が基本と考えているが、講座後の参加者アンケートの結果や、本日の対話会での意見を踏まえて、募集方法や対象団体、内容などを検討したいと考えている

皆様には、ぜひ防犯士としての活動に取り組んでいただき、その活動を継続していただくことで稲毛区がより住みやすい町となるように一緒に取り組んでいただけたらと考えている。